

ロータリーとポリオ

ポリオとは

ポリオ(急性灰白髄炎)は、ウイルス感染によって発症する病気で、ワクチンでの予防が可能です。感染した場合、ウイルスが神経組織に入って身体まひを引き起こし、ときには死に至ることもあります。5歳以下の子どもに感染する確率が高く、「小児まひ」とも呼ばれています。

ポリオプラス

ロータリーは1985年、大々的な予防接種を通じてポリオの撲滅をめざす「[ポリオプラス](#)」を開始しました。これまでに17億米ドル以上を投入し、ロータリー会員は、122カ国の25億人以上の子どもに予防接種を行うために多大な時間を捧げてきました。また、アドボカシー(政府への働きかけ)を通じて、ドナー国政府からの72億ドル以上の資金確保に貢献しています。

世界ポリオ撲滅推進活動

[世界ポリオ撲滅推進活動\(GPEI\)](#)は、ロータリー、[世界保健機関\(WHO\)](#)、[ユニセフ](#)、[米国疾病対策センター\(CDC\)](#)、ビル&メリンダ・ゲイツ財団、そして各国政府を含む官民共同の取り組みです。ロータリーは主に、アドボカシー、ファンドレイジング、ボランティアの動員、認識向上における重要な役割を担っています。

ポリオの現況

現在も野生ポリオウイルスによる感染が続いているのは、アフガニスタン、ナイジェリア、パキスタンの3カ国となっています。2016年に報告された野生型ポリオウイルスによる発症数は37件となっており、毎日約1,000件の発症が確認されていた1980年代と比較すると99.9%以上の減少となります。

課題

残る0.1%のポリオとの闘いが最も困難であると言われています。これは、遠隔地、不十分な公共インフラ、紛争、文化的障壁といった要因が、予防接種活動の妨げとなっているためです。ポリオを撲滅するまでは、世界中の国が再発生のリスクにさらされています。

ポリオを撲滅するために

ロータリーは、今後3年間で毎年5,000万ドルを集めるファンドレイジングを行っています。ゲイツ財団とのパートナーシップにより、ロータリーからの5,000万ドルの寄付に対して、2倍の額の寄付がゲイツ財団から上乘せされます。これらの資金は、撲滅活動の運営、医療従事者の

確保、研究所の設備、保健従事者と親への教育のために使用されます。資金の確保においては、政府や企業、個人が大きな役割を果たします。

活動するロータリー

100万人以上のロータリー会員が、ボランティア、寄付、募金活動を通じて撲滅活動を支援しているほか、大勢の会員がポリオ感染のリスクが高い海外の地域社会に赴いて、予防接種活動に参加しています。また、ユニセフなどの団体と協力し、紛争や地理的・経済的要因によって隔離された地域で予防接種への認識を高めるためのコミュニケーション活動を実施しています。さらに、ボランティア動員やワクチン輸送などの手配面でも支援を行っています。

「あと少し」キャンペーン

ロータリーは、ポリオ撲滅に対する一般の認識を高めるために「あと少し」キャンペーンを立ち上げ、以下を含む多くの著名人が参加しています。

- ビル・ゲイツ
- デズモンド・ツツ大司教(ノーベル平和賞受賞者)
- 緒方貞子(元国連難民高等弁務官)
- ジュディ・オング(歌手)
- マニー・パツキャオ(ボクサー)
- アーチー・パンジャビ(女優)
- ジャッキー・チェン(俳優)
- ジャック・ニクラウス(プロゴルファー)
- PSY(歌手)
- ジェーン・グドール(自然保護活動家)
- A.R. ラフマン、アンジェリーク・キジョー、ジギー・マーリー(アカデミー賞受賞者)
- ヌール・ヨルダン王妃(平和唱道者)
- イツァーク・パールマン(バイオリニスト)